

# 着地型グリーンツーリズムで荒廃農地を再利用 ～観光は新たな農業危機の救世主、舞台は長野県信濃町～

桜美林大学 ビジネスマネジメント学群

渡邊ゼミ

## 1. 要旨

本企画の舞台は北信に所在する長野県信濃町である。信濃町は野尻湖や一茶記念館、信州そばなどの観光資源があるが、現在は高齢化や若者の都心部への移住などにより人口減少に悩んでいる。このことで大きく影響を受けているのは農業である。そこで本企画では着地型観光で都心に住む小学生に荒廃農地を再利用してもらい、現在の急激な農業就業者数の減少に歯止めをかけるためのきっかけづくりをする。具体的には小学4,5,6年生たちが長野県信濃町に年に一回ずつ訪れ、荒廃農地で自然体験、農業体験をする。本企画の自然体験とは信濃町の大自然を感じることに加え、本来の自分の姿になり、水田の泥にまみれながら泥合戦や泥運動会などをする体験のことを言う。農業体験に自然体験をプラスすることで、小学生らに自らまたやりたいと思ってもらえる魅力を取り入れた。

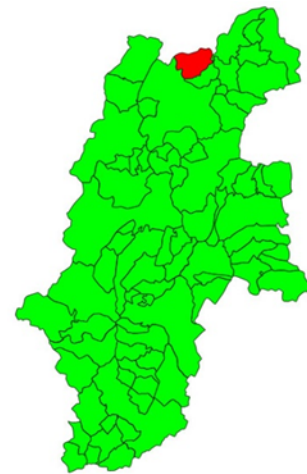
手段としては旅行会社に林間学校の種類として、小学校に向け本企画を提案してもらおう。本企画を行うことが、荒廃農地を再利用し、農業就業者数の獲得するための一番の策であると考えます。

## 2. 信濃町について

長野県上水内郡の町。長野市から北21.2kmに位置し、飯山市と長野市と飯綱町、新潟県では妙高市に隣接している。2017年6月30日の調査によると、総人口数8,757人。世帯数は3,397世帯で面積は149.3km<sup>2</sup>。主な観光地としては野尻湖や黒姫高原、妙苗滝、斑尾高原、黒姫童話館、野尻湖ナウマンゾウ博物館、国の史跡である小林一茶旧宅などがある。

特産品としては、経済産業省指定の伝統工芸品である、信州打刃物。農産物ではそば、とうもろこし、ブルーベリー、ルバーブなどがある。

信濃町の農業就業者数は604人である。この数字は長野県の中でも比較的小さい数値だ。隣町である飯綱町は面積が約75km<sup>2</sup>と信濃町の約半分の面積だが、農業就業者数は1,493人と信濃町の2倍以上である。また、荒廃農地面積が広い県1位鹿児島県、2位長崎県、3位長野県であり、都心の小学生らが1泊2日で行ける範囲内では長野県が1位である。これらのことから長野県の荒廃農地をうまく活用できないかと考え、本企画を提案することにした。



## 3. 企画内容

### 3-1 都会の小学生対象の農業体験ツアー


本企画は都心に住む小学生に自然体験、農業体験、観光をすることで学びの場を提供する。農業体験では、4年生は種まき、5年生は畑・水田の管理、6年生は収穫といったように1年に3度信濃町へ学年の異なった小学生が訪れるよう提案する。つまり、4年生、5年生、6年生までに各学年が1年間に1回

ずつ、計3回長野県信濃町に訪れる企画である。自然体験では荒廃農地となってしまった水田で運動会やサッカーなどのレクリエーションをしてもらう。泥だらけになって無邪気に遊ぶことができる機会はなかなかない。この体験は子供たちの精神が強くなるとともに、子供たちにとって「農業は楽しい」と良い記憶に残る貴重な体験になると考える。また、信濃町を観光してもらうことで、信濃町に関心を持ってもらい、また訪れたいという気持ちにさせる。

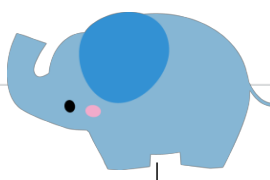

### 3-2. 小学校に向けた企画書

- ① テーマ：「教科書を超えた学びの場を子供たちへ」
- ② 目的：美しく豊かな自然に恵まれた長野県信濃町で農業体験、観光資源を巡り、自然体験と関連付けることで社会性を身に付ける。
- ③ 旅行期日：5月上旬～9月の間の1泊2日
- ④ 旅行先：長野県上水内郡信濃町
- ⑤ 宿泊先：やすらぎの森オートキャンプ場
- ⑥ 費用：一人当たり 4年生 子供：19,800円 大人：20,400円、5年生 子供：19,400円 大人：20,000円、6年生 子供：25,200円 大人：25,800円
- ⑦ 参加人数：1学年生徒90名、引率教師10名 毎回各100名
- ⑧ 交通機関：バス(中型貸切バス4台)

#### 日程 【1日目】

5月上旬 4年生	7月下旬 5年生	9月 6年生	備考
信濃町着 @やすらぎの森 オートキャンプ場	信濃町着 @やすらぎの森 オートキャンプ場	信濃町着 @やすらぎの森 オートキャンプ場	・やすらぎの森オートキャン プ場：東京ドーム1.75倍の広 大な敷地面積!360°森に囲ま れたキャンプ場!
昼食(持参)	昼食(持参)	昼食(持参)	
泥運動会!	ウォークラリー@癒しの森	収穫体験 工作体験・クイズゲーム	★泥運動会：「代掻き」を運 動会の競技を利用して協力し ながら楽しくやろう! ・癒しの森：森林セラピー基 地として認定されています!
種まきor田植え			
夕食(カレー作り)	夕食(カレー作り)	夕食(カレー作り)	
星空観察	キャンプファイヤー	キャンプファイヤー	
就寝	就寝	就寝	

## 【2日目】

5月上旬	7月下旬	9月	備考
4年生	5年生	6年生	
起床	起床	起床	
朝食	朝食	朝食	
	<b>畑・田んぼの調査</b>	<b>カヌー体験 @野尻湖</b> 	・ナウマンゾウ博物館：野尻湖で発掘された化石や狩りの道具などを見学！ペンダント作り体験♪
<b>見学&amp;体験 @ナウマンゾウ博物館</b>	↓	↓	・矢保利の館：町民の方々と一緒にそば打ち体験！
<b>昼食(そば打ち体験) @矢保利の館</b>	<b>昼食(そば打ち体験) @矢保利の館</b>	<b>昼食(そば打ち体験) @矢保利の館</b>	・一茶記念館：江戸時代「三大俳人」である小林一茶の遺品、俳句などの作品見学！
	<b>黒姫童話館見学</b>	<b>一茶記念館見学</b>	・黒姫童話館：世界の名作童話や信州の民謡などを楽しもう！
<b>現地発</b>	<b>現地発</b>	<b>現地発</b>	

### 3-3. この企画の実施のために必要な協力者

荒廃農地を利用するためには、水田や畑の状態が整っていないと活動はできない。また、小学生の農業体験期間は限られてしまっているため、小学生が来ることができない時も地域住民の方々に小学生たちが無事に種まきから収穫までの作業をできるように協力していただく必要がある。

- ・信濃町役場農業委員会…農地を耕作目的のために売買・貸し借り・解約等をする農家の方々のために農業委員会が審査決定をし、権利移動の許可を出す。
- ・地域住民のボランティア…小学生が毎日来ることができないため、地域の方々に定期的に水田や畑の管理してもらい整った状態の維持に努める。また、小学生が訪れた際には、小学生と一緒に活動に参加してもらう。
- ・地域おこし協力隊…荒廃・遊休農地の解消や産業復興に係る支援、地域活動への参加などを行っている。JAながのと協力し荒れた農地を農業ができる程度に開墾してもらう。
- ・JAながの…一般社団法人全国農協観光協会と連携し、都市と農村部の交流を図る農作業支援ボランティアや実際に食農教育やグリーンツーリズムを行っている。
- ・旅行会社…小学校に本企画を提案し、小学生の呼び込みをしてもらう。

### 4. 企画の特色

本企画の特色は以下の通りである。小学生と受け入れ地域2つの視点から考える。

#### 【小学生】

- ・田んぼや畑での活動を行うことで、教室では学べない貴重な体験や学習が可能である
- ・離れつつある農業に対するイメージを取り戻す
- ・コミュニケーション能力の向上や生活習慣の見直しにつながる

- ・感謝の心など多面的な学びが可能である
- ・年間を通した栽培活動を4年生から6年生までの3年間同じ地域で行うことにより、農業に関する理解に加え、地域への愛着を持つことが可能である
- ・農業体験だけでなく観光を取り入れることにより、広い視点から信濃町を見ることができ、地域への関心を高めること可能である
- ・新鮮野菜のおいしさや、やり遂げた後の達成感など農業の魅力を感じられる

#### 【受け入れ地域】

- ・農業についての知識を獲得してもらい、荒廃農地の実態問題を共に考える機会を提供する
- ・農業の後継者不足となっている信濃町に小学生を呼び込むことで、将来の農業就業者の増加につながる可能性を高める
- ・「おいしい」といった生の声を聞けることで普段大変な農業が活気のあるものとなる
- ・荒廃農地を再利用することで荒廃農地の減少が見込める

以上のことから長野県信濃町に荒廃農地を利用した農業体験は地域住民の地域活性化に向けた取り組みとして非常に有効であるといえる。

## 5. 企画背景

### 5-1 日本の農業を取り巻く状況

現在、全国では人口減少が問題になっている。平成22年と比べると約1億2,806万人だった人口が平成28年では約1億2,693万人と6年間で約12万人の減少がみられている。それに伴い、農業人口も急激に減少しており、平成22年に約260.6万人、平成28年は約192.2万人と同じく6年間で約68.4万人減少している。また、工場や道路、宅地などへの転用や耕作放棄などにより畑・水田が荒れ、利用可能な農地も減少している。

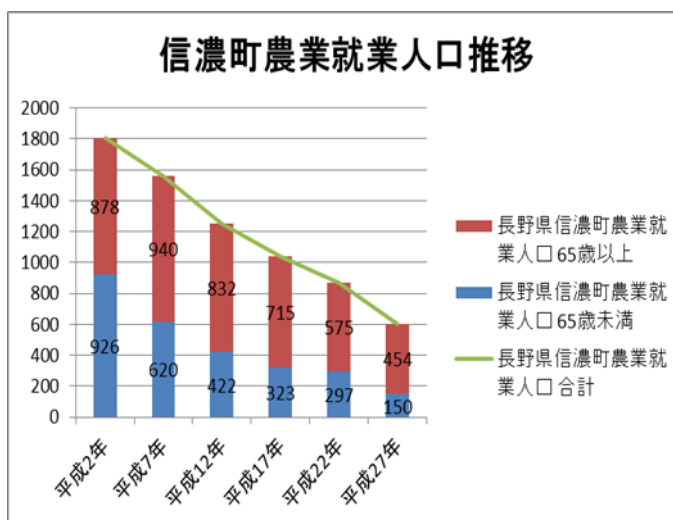
### 5-2. 都会の小学生に不足しているもの

野外教育は、健全な青少年の育成にとって重要であるばかりか、生涯にわたって自然に親しみ、豊かな人生を送るための基礎や手段を学ぶものとして大きな役割を担っている。

しかし現代の社会では、学校から一歩外に出ると、高層建築や道路などの人工物にあふれている。その結果、子どもたちが自然を感じられることが少なくなった。スマホやゲームなど、室内で過ごすことが多くなり、児童の体験活動の機会が減少している。土や虫に触れない児童、習い事に追われて時間に余裕がない児童、地域での遊びの拠点を持たない児童が多い。

### 5-3. 長野県信濃町の現状

右の図は信濃町総務課の調査による信濃町農業就業者人口推移を表している。平成2年には1,804人いたにもかかわらず、平成27年は604人と25年間で3分の1まで落ち込んだ。その中でも、平成27年の65歳未満の農業就業者は150人だ。今の状態を維持し続けると、約30年後には現役世代が0となり、約60年後には信濃町全体の人口が0になってしまう恐れがある。この状況は深刻な問題であり、一刻も早く抑止しなければならない。



## 6. 終わりに

日本では現在、少子高齢化が原因で農業の担い手が不足している。その結果、全国的に利用されていない農地が増加し荒廃農地となっている。さらに、子供たちも時代の流れとともに自然との触れ合いの場がなくなりつつある。

さまざまな企業では、地域と協力し農業の担い手不足の対策を行っている。特に、旅行会社では、農業体験や田舎暮らし体験、ふるさと体験交流などの企画を実施している。

このように観光ではグリーンツーリズムが注目されているものの、大きく成功した例はない。そこで、本企画は、小学生に思い切り自然体験をさせることでグリーンツーリズムの成功を狙う。

本企画を実施することで、農業の担い手不足の問題、荒廃農地の増加、さらには子供たちの自然離れなど、これらの問題を一度に解決することを目指す。参加した小学生は農作物を育てることの大切さや、普段何気なく口にしている食材には生産者のこだわりや思いが込められているという農業のありがたみを学ぶことができ、農業への関心が強まるだろう。

長野県信濃町を筆頭に本企画が多く行われ、農業の現状が改善していくことを願う。

## 7. 参考文献

・「生活体験・自然体験が日本の子どもたちの心をはぐくむ」 生涯学習審議会

・長野県信濃町わがマチ・わがムラ

<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/20/583/details.html>

・農林水産省ホームページ

<http://www.maff.go.jp/>

・平成28年度 長野地方農業の概要 長野地方事務所(農政課)

[http://www.pref.nagano.lg.jp.cache.yimg.jp/nagachi/nagachi-nosei/kannai/renrakusaki/nosei/documents/h28nagano\\_nougyou\\_gaiyou.pdf](http://www.pref.nagano.lg.jp.cache.yimg.jp/nagachi/nagachi-nosei/kannai/renrakusaki/nosei/documents/h28nagano_nougyou_gaiyou.pdf)

・総務省統計局ホームページ 人口推計の結果の概要

<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.htm#monthly>